

公立大学協会は、
全国 76 すべての公立大学で
組織されています。



The Japan Association of Public Universities

公立大学協会

公立大学協会ニューズレター Vol.2 No.3

2007年10～11月号／2007年11月19日発行（通刊第9号）

【発行責任者】佐々木 雄太（公立大学協会会長／愛知県立大学長）

【編集責任者】中田 晃（公立大学協会事務局長）

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimmu@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.jp/

平成19年度学長会議を愛知県立大学で開催

政策・教学・経営の3委員会に各学長が参加し、活発な議論を展開

10月25、26日の2日間にわたり、平成19年度学長会議が、愛知県立大学(1日目)及びホテル・ルブラ王山(2日目)を会場として行われた。

佐々木会長からの開会挨拶(本欄に掲載)に続き、開催校の設置者である愛知県公立大学法人の清水哲太理事長から、「公立大学は、ややもすると国立大学と私立大学の間で存在が薄れがちであるが、みなさんと一丸となって存在意義を打ち出していきたい。」との挨拶を頂戴した。

* * *

プログラムの最初に、「愛知の地域づくりと県立大学への期待」として、愛知県の稲垣隆司副知事より、愛知県の地域特性、今後の地域づくりと県立3大学との連携、県立大学への期待についてご講演いただいた。

続いて、大学振興課の加藤健公立大学専門官から「高等教育政策の新たな展開について」として、20年度概算要求及び新施策である戦略的学大連携支援事業の解説が行われた。

その後、加藤専門官の報告を受けて、各委員会の委員長から問題提起が行われ、大学間連携の話題を中心に、熱心な議論が行われた(写真:下)。



会議終了後、名古屋市内のルブラ王山に会場を移し、愛知県立芸術大学の学生による弦楽四重奏(写真:下)が流れる和やかな雰囲気のもと、意見交換会が開催された。



2日目は、全体会議として、第5回理事会報告等の会務報告が行われた後、政策、教学、経営の3委員会が拡大委員会を開催し、各学長はそれぞれ希望の委員会に参加し、意見交換を行った。

政策委員会では、「戦略的学大連携支援事業」を中心テーマとして、議論が展開された。

教学委員会では、東京農工大学の小笠原正明教授による「連携型FDの課題と今後の展望」の講演、続いての「教育力向上取組み事例調査」の事例発表(①FD=茨城県立医療大学及び新潟県立看護大学、②SD=広島市立大学及び熊本県立大学、③教員・職員のパートナーシップ=和歌山県立医科大学)を受けて、意見交換が行われた。

経営委員会では、大阪市立大学による事例提供「外部資金獲得の一事例」をもとに、寄付募集や支援組織の構築といった課題が話し合われた。

* * *

学長会議終了後には、「公立大学トップセミナー」を開催し、独立行政法人日本スポーツ振興センターの上杉道世理事(前東京大学理事)を講師に迎え、「大学経営者としての学長のあり方—事務職員等の人事・組織・業務の改革の中心として—」として、東京大学の改革の実例を挙げながら、①大学のミッションを果たすためのスタッフの重要性、②大学の政策立案スタッフの育成、③改革を推進する学長のリーダーシップ、等についてお話しいただいた。

佐々木雄太会長挨拶

はからずも会長の大任をお引き受けして5ヶ月になりました。正直に申しまして、大変多忙な5ヶ月間でありました。この間、3人の副会長、理事、相談役、そして中田事務局長代行をはじめとする事務局の奮闘に助けられながら、協会の業務に取り組んでまいりました。特に、理事会や委員会における議論の開示も含め、徹底して透明な協会運営と、全会員大学への情報の提供を心掛けてまいりました。しかし、不十分な面も多々あり、新たに直面する諸課題への対応に追われ、総会で約束した懸案を一部先送りせざるを得ないこともありました。この点は、どうかお許し下さい。

この間、あらためて認識を強めた点が二つあります。

ひとつは、依然として大学、そして公立大学を取り巻く(4ページへ)

〈委員会活動報告〉

教学委員会の第2回委員会及び政策委員会・将来像作業部会／経営委員会・公立大学法人作業部会の2つの作業部会の初会合が開催された。

将来像作業部会は、設置者との関係や財政問題等の公立大学の基本問題や道州制をはじめとした今後想定される社会環境の変化への対応に関する議論について、公立大学法人作業部会は、法人化した公立大学の経営課題に関する調査研究や先行事例の情報提供、セミナーの開催等について、それぞれ活動を展開していくこととなっている。

* * *

第2回教学委員会

【開催日】平成19年10月12日(金)

【会場】公立大学協会 会議室

【出席者】今井委員長、西野委員、浅田委員、米澤委員、中島(恭)委員、鬼怒川聡専門委員(首都大学東京学生サポートセンター事務部長)、光本専門委員、中田事務局長代行

【議事】

協議に先立ち、(1)文部科学省説明「学士課程教育の再構築に向けて」(鈴木敏之高等教育政策室長)、(2)中教審における高大接続に関する審議状況及び国立大学協会の入学者選抜に関連する審議状況について(中島(恭)委員)、(3)就職問題懇談会について(鬼怒川専門委員)、の3点の報告・

説明がなされた。

協議事項としては、(1)「教育力向上取組み事例調査」の結果について、(2)入試作業部会の構成と入試に関する協議体制について、(3)看護・保健医療部会の作業部会における人材育成の検討について、(4)拡大委員会の次第について、(5)今後の検討について、の5点について議論が行われた。

政策委員会

第1回将来像作業部会

【開催日】平成19年8月29日(水)

【会場】北九州市立大学 学長室

【出席者】矢田委員長、江里委員、草間朋子特別委員(大分県立看護科学大学長)、永津美裕専門委員(北九州市立大学大学院教授)、尾上一夫専門委員(北九州市立大学事務局副局長)、佐藤専門委員、中田事務局長代行

【議事】

(1)第1回政策委員会議事の論点整理と論点に対する意見照会について、(2)道州制について、(3)今後の検討スケジュール等について、の3点が話し合われた。

(1)の意見照会の実施にあたっての質問項目等の検討、(2)についての政府内での検討状況や、各地での議論・取組みの確認と公立大学に及ぼす影響等について意見交換が行われた。

経営委員会

第1回公立大学法人作業部会

【開催日】平成19年9月16日(日)

【会場】ホテル新大阪 会議室

【出席者】赤岡委員長、南委員、森委員、永津専門委員、関口恭三専門委員(監査法人トーマツ・公認会計士)、中田事務局長代行

【議事】

(1)作業部会の検討課題について、(2)公立大学法人セミナーについて、(3)今後の進め方について、の3点が話し合われた。

(1)については、①法人化によって成し得た大学改革の成果の確認、②公立大学法人の評価、決算等に係る諸課題、③看護系大学など単科大学の法人化に係る諸課題、の3課題の検討を進めていくこととなった。

第2回公立大学法人作業部会

【開催日】平成19年10月16日(火)

【会場】大阪府立大学 学長室

【出席者】南委員、北條圭一専門委員(大阪府立大学理事)、関口専門委員、永津専門委員、[大阪府立大学:湯浅経理課長、巖榎経営企画課長、横山総務総括主査]、中田事務局長代行

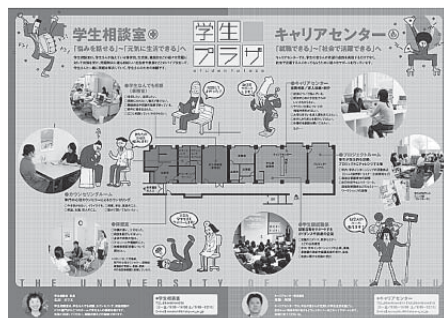
【議事】

公立大学法人の経営課題について、各大学の財務諸表や評価報告書をもとに意見交換が行われた。

公立大学 News Watch②

今回は、学生支援の取組みに関するニュース2点をご紹介します。

○「北九州市立大：生活、心身、就職まで支援する施設開設」(10月10日付・毎日新聞、他)



(北九州市立大学 学生プラザ・パンフレット)

北九州市立大学では、学生生活を総合的にサポートする「学生プラザ」を開設した。

これは、修学・生活面の相談(何でも相談窓口)から健康面(保健室)、心の悩み(カウンセリングルーム)まで、学生のあらゆる相談に対応する学生相談室と、進路相談、インターンシップ・就職活動支援等を担うキャリアセンターの2つからなっており、北九州市立大学の目指す「入試から就職まで一貫した教育システムの構築」へ向けた取組みの一環となっている。

* * *

○「ピア・サポート事業始まる 岩手県立大学」(10月2日付・岩手日報)

岩手県立大学では、10月よりピア・サポーターによる相談室、サポータールームを開設した。

「ピア」とは「仲間」のことで、専門の研修を受けた学生が、同じ学生の目線を生かし、履修などの学習相談から、生活、恋愛の相談まで幅広く対応する。学生同士の助け合い意識の向上につながることも期待されている。

本欄では、報道や各会員大学のサイトの情報をもとに、特色ある取組みをご紹介します。掲載希望の際は、事務局までお問い合わせください。

〈理事会報告〉平成19年度第5回理事会

2007.10.11 公立大学協会 会議室

第5回理事会では、議事に先立ち、中岡司大学振興課長、井上卓己大学改革推進室長より、「戦略的・大学連携支援事業等について」の説明が行われ、それに対する質疑・意見交換がなされた。

その後、議事として以下について報告及び議論が行われた。

- (1) 第4回理事会以降の活動状況について(報告)
- (2) 会則の整備について
- (3) 公立大学協会の中期目標等について
- (4) 学長会議の運営について
- (5) 事務局長連絡協議会の運営について
- (6) 事務局体制について
- (7) 公立大学総合損害保険(仮称)の創設に向けての検討について
- (8) その他

(1)の、第4回理事会(7月20日)以降の協会の活動状況については、各委員長から委員会の活動状況、各地

区選出理事より地区協議会の模様、会長よりその他アンケートの実施状況や会議・シンポジウムへの参加等についての報告がなされた。

(2)の会則の整備については、運営会議による「公大協会則整備要項(案)」をもとに議論が行われ、案に理事会意見を付した上で、学長会議において提示することとなった。

(3)の公立大学協会の中期目標等については、協会の法人化の必要性が高いことを認識しつつ、まず法人化ありきではなく、メリットとデメリットをきちんと精査した上で素案作りを行っていくこととした。

(4)の学長会議の運営及び(5)の事務局長連絡協議会の運営については、それぞれ進行案の説明が行われ、原案通り実施することとなった。

(6)の事務局体制については、11月1日付で中田晃事務局長代行に事務局

長を委嘱することが会長より提案され、全会一致で承認された。また、事務局職員の募集について経過説明が行われ、選考にあたり、佐々木会長及び加藤相談役のほかに、外部委員を加えることが提案され、了承された。

(7)の公立大学総合損害保険(仮称)の創設に向けての検討については、各大学へのアンケート結果において、その必要性を認める回答が多数であったことから、作業部会を設け、平成20年度からの創設が可能かどうか検討を進めていくこととなった。

* * *

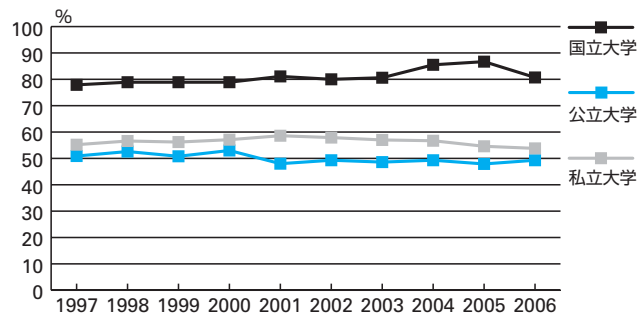
〈出席〉佐々木会長、今井副会長、赤岡副会長、矢田副会長、小林理事、鶴見理事、祖田理事、金児理事、江里理事、米澤理事、草間理事、三宮監事、加藤相談役、森相談役、中島相談役、中田事務局長代行

データで見る公立大学⑨ 公立大学の入試(3)

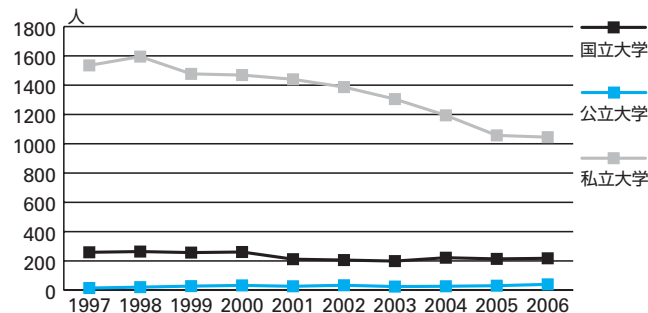
メディア等では、大学の国際化や、社会人の生涯学習、キャリアアップのための学びの機能強化の必要性が唱えられ、各大学の特色ある取組みが報じられている。

これに関連した特別選抜の実施状況を見ると、社会人特別選抜の実施大学は増加傾向にあり、帰国子女特別選抜も以前から国公私とも5割以上の大学で実施されている。しかし、入学者数についてはいずれも減少、あるいは低い水準にとどまっている。

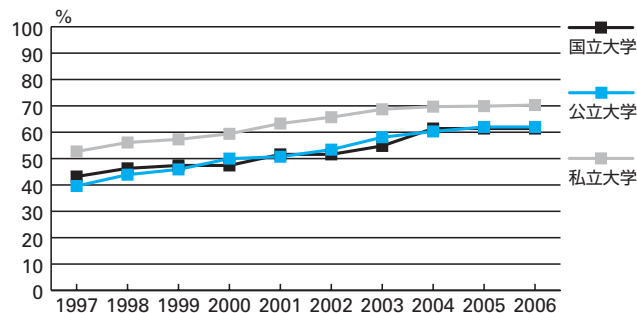
【1】 帰国子女特別選抜実施大学の割合



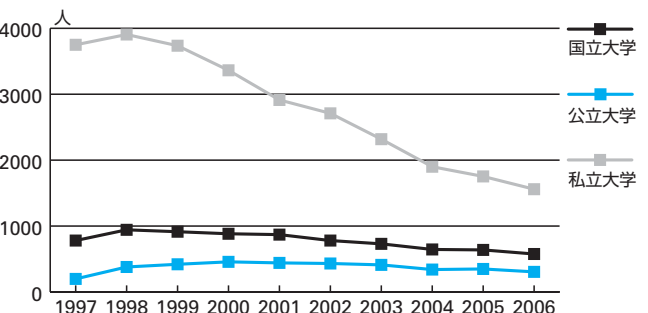
【2】 帰国子女特別選抜による入学者数



【3】 社会人特別選抜実施大学の割合



【4】 社会人特別選抜による入学者数





(1ページから)情勢は大きく動いている、という点です。文部科学省の平成20年度概算要求は、大学間連携の新たな地平を開こうとしています。あるいは、道州制をめぐる動きもまた、公立大学の行く末に大きく関わらざるを得ない問題であろうと思います。

いまひとつは、公立大学に対する

社会的認知が依然として不十分だという点です。この間に、自民党の大学・大学院教育小委員会や文部科学省・経済産業省が共同で進める産学人材育成パートナーシップの会合等に、公立大学協会は、国立大学協会や私立大学団体と肩を並べて出席し、発言する機会を与えられました。しかし、このような機会にも、政界や産業界における公立大学の認知度の低さを感じざるを得ませんでした。

このような状況ですから、76の公立大学がひとつになり、協会の活動を様々な面で活性化していくことが、なお一層重要であろうと思います。

大規模複合大学から小規模な単科大学まで、あるいは設置者の規模やその財政事情など、実に多様な会員大学を擁するのが公立大学協会の特徴であります。私どもも、多様性を持ったすべての会員大学にしっかりと目配りをしながら、会則に基づく組織的な協会運営を心掛け、衆知を集めて協会と公立大学の発展に努力いたします。どうか、これまでの協会運営に対する忌憚のないご意見をいただきますとともに、今後とも皆様のご協力とご鞭撻をいただけますよう、あらためてお願いいたします。(掲載にあたり一部を省略しました)

平成19年度入学者選抜実務担当者協議会

2007.9.12 銀座ブロッサム

今年度の入学者選抜実務担当者協議会が、53大学69名の参加を得て開催された。

中島恭一相談役(前富山県立大学長)の挨拶で開会した後、株式会社内田洋行 教育総合研究所研究推進担当部長の荻田仁氏による講演「地域における公立大学の存在位置とアピール戦略」、学校法人河合塾 教育情報部長の服部周憲氏による講演「平成19年度大学入試の総括と平成20年度国公立大入試の展望について」が行われた。

荻田氏の「行政を通じて公立高校との関係構築が可能ということが国私立大にない公立大学の大きな強み」という提起や、服部氏による最新の情報をもとにした入試動向分析に、参加者は皆熱心に耳を傾けていた。

続いて、入学者選抜課題調査の結果や協会の今後の取組みについて協議が行われ、来年度以降の協議・情報交換の在り方については、今回の協議会のアンケート結果をもとに、より効果的な形態を検討していくこととなった。

公立大学法人会計セミナーを開催

2007.9.27 東京 10.15 大阪

平成19年度能力開発事業Iとして、昨年に続き、公立大学法人会計セミナーを開催した。

今年度は、1日の講座として東京及び大阪に会場を設定して実施したところ、東京会場49名、大阪会場58名と、当初の想定を上回る参加があった。

当日のアンケートでも、レベル別・目的別など複数回の開催や各地区ごとでの実施を求める声があり、各大学及び設置者の関心、実務上のニーズの高さがうかがえた。

公立大学協会の主な活動の記録

2007.8.1 ~ 2007.9.30

8月

1日(水)★「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)に基づく体制整備等の実施状況報告」に係るアンケート(政策委員会)を会員大学にメール送信。

2日(木)★看護・保健医療部会(学士会館分館)。

7日(火)★研究振興局 磯谷学術研究助成課長、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」について。★佐々木会長、東北大学高等教育開発推進センター主催のシンポジウム「高等教育の市場化における大学団体の役割と課題」(東京・サピアタワー)にパネリストとして出席。加藤相談役、中田事務局長代行が参加。

8日(水)★「教育力向上のための取組み事例調査」(教学委員会)を会員大学にメール送信。

22日(水)★文部科学省に科学研究費補助金に係る要望書を提出。

29日(水)★政策委員会・第1回将来像作業部会(北九州市立大学)。

31日(金)★北海道・東北地区協議会(秋田ビューホテル)。★商・経・経営学部会(尾道大学)。

9月

3日(月)★大学振興課 平野課長補佐来局、「学校教育法施行規則の一部改正について」説明。

5日(水)★九州・沖縄地区協議会(熊本県立大学)。

6日(木)★生活科学・環境学系部会(ルビノ京都堀川)。

10日(月)★事務局長代行、国立大学協会入試委員会にオブザーバー参加。

12日(水)★入学者選抜実務担当者協議会(東京・銀座ブロッサム)。

14日(金)★東海・北陸地区協議会(福井県立大学)。

15日(土)★赤岡副会長、事務局長代行、第4回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(広島修道大学)に参加。

16日(日)★第4回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(2日目)。★経営委員会・第1回公立大学法人作業部会(ホテル新大阪)。

18日(火)★「公立大学協会ニューズレター Vol.2 No.2(通巻第8号)」を会員大学へ郵送。

20日(木)★近畿地区協議会(大阪市立大学)。

21日(金)★関東・甲信越地区協議会(山梨県立大学)。

25日(火)★中国・四国地区協議会(山口県立大学)。

26日(水)★大学振興課 中山公立大学係長来局、「公立大学の税制に係る要望について」。

27日(木)★公立大学法人会計セミナーを開催(東京・銀座ブロッサム)。

28日(金)★事務局長代行、就職問題懇談会に出席。○紙幅の関係上、本号より、掲載を主要会議等に限定いたしました。

※役職名等は全て日付当時

※訪問、来局の機会が多い文部科学省の省名及び高等教育局の局名については表記を略しています

事務局より

今回より、協会の活動記録欄を最小限度に抑え、若干ながら記事のスペースを拡大しました。今後とも、なるべく多くの報告事項や有用な情報を記事としてご提供できるよう心がけてまいります。

紙面についてのご感想やご意見等ございましたら、ぜひ事務局までお寄せください。